

保育・こども通信～保護者さま・保育者さまへのお役立ち情報～

その鍵、本当に子どもには届きませんか？

～園児が椅子を運び、オートロックを解除した事故から考える～

◆ 2026年4月、杉並区立子供園で起きた「園外逸脱」

2026年4月、東京都杉並区の子供園で、園児が一人で園外に出てしまう事故が起きました。園児にけがはなく、約10分後、園から約50mほど離れた場所で無事に保護されています。この事故で注目したいのは「どのようにして園外へ出たのか」です。園児は玄関から約3m離れたところにあった椅子を自分で移動させ、その椅子を踏み台にして、オートロックの解錠ボタンを覆っていたカバーを開け、ボタンを操作して玄関から外へ出たと報告されています。

何が原因だったのか？ どうして起きたのか！？

椅子を見つける ▶ 約3m運ぶ ▶ 踏み台にする ▶ カバーを開ける ▶ 解錠ボタンを押す

① 「手が届かない高さ」は、踏み台がひとつあれば成り立たなくなる

解錠ボタンにはカバーが付き、大人が「子どもの手は届かない」と判断できる高さにありました。しかし高さを頼りにした対策は、運べる踏み台が1つあるだけで前提が崩れてしまいます。

② 玄関のすぐ近く(約3m)に、子どもが運べる椅子があった

鍵(設備)と椅子(家具)は別々に点検されがちです。設備単体では安全でも、「周囲の物との組み合わせ」で突破口が生まれます。物の配置と子どもの動線を合わせて見る視点が必要でした。

③ 子どもの「今できること」の更新が追いついていなかった

昨日まで届かなかった場所に、今日は届く。さらに「椅子を使えば届く」と考える力も育ちます。対策を決めた時点の子どもの姿のままで、点検が止まっていたと考えられます。

ではどうすればよかったのでしょうか？



守り方を「高さ」だけから、「物の配置＋動線＋見守り」へ広げる

- ① 玄関の近くに「運べる物」を置かない／椅子・箱・玩具は玄関から離す、または動かせないようにする。
- ② 鍵は高さだけに頼らない／踏み台を使っても操作できない位置・方式を併せて用意する。
- ③ 子どもの目線と体格で園内を歩く／突破できそうな場所を、職員同士で実際に洗い出す。
- ④ 「最近できるようになったこと」を共有する／発達に合わせて対策を定期的に見直す。

【子どもの目線で園内点検】

- ☑ 踏み台になりそうな椅子・玩具はありませんか？ ☑ 子どもが自分で開けられる扉・窓はありませんか？
- ☑ 棚や遊具を使うと届く場所はありませんか？ ☑ 職員から一時的に見えなくなる場所はありませんか？

安全な環境とは、単に「危険なものが置かれていない環境」ではありません。そこで過ごす子どもが、どのように動き、何を考え、周囲の物をどう使うのか。子どもの発達と行動まで想像しながら環境を見ることが、事故を防ぐ大切な視点になります。今回の事例をきっかけに、先生方も一度「子どもになったつもりで園内を歩いてみる」のはいかがでしょうか。

◆ 先生同士で「子どもが突破できそうな場所」を3か所探してみましょう ◆